

3.6 ミズヒマワリ【特定外来生物】



★対策のポイント★

➤ 植物断片を完全に除去

地上部だけを除去しても、栄養繁殖により残存した植物体（根を含む）から再生

➤ 発見したらすぐ除去

増殖速度がとても速いため、発見次第すぐに除去

増殖すると除去に要する労力が増える

➤ 拡散の防止が重要

植物断片からも再生する

除去の際、ちぎれた断片を拡散させないためにオイルフェンス等を設置

植物断片を広げないために駆除に用いた道具へ付着した土は水で洗浄し植物断片を残さない

➤ 適正な処分が重要

外来生物法に基づいた処分が必要（1.3.2 を参照）

駆除後はアスファルト上等乾いた場所に置き完全に枯死させる

➤ 継続的な駆除・定期的な確認が重要

除去し損ねた植物断片から再生する恐れがあるため1回の駆除ではなく根気強く継続的に実施

駆除後も再生の有無を定期的にモニタリング

➤ 地上部が衰弱している時期の除去

地上部が衰弱している冬季（12月～3月、特に1、2月）駆除を実施

➤ 種子をつける前に除去

開花期前の1～5月に除去（開花期は6～11月）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生活史	越冬					開花・結実						越冬
				栄養繁殖								
駆除推奨時期	抜き取りや剥ぎ取り											
				遮光								

図 51 ミズヒマワリの生活史と駆除スケジュール
（生育する地域や環境により異なることがある）

3.6.1 生態・見分け方

【概要】

ミズヒマワリ (*Gymnocoronis spilanthoides*) は中央・南アメリカ原産の多年生の抽水植物である¹⁾。日本では特定外来生物に指定されている¹⁾。

アクアリウム等観賞用に導入後、野外逸脱したと考えられており、1995年に愛知県で侵入・定着が確認された²⁾。令和7年2月現在、関東地方、北陸地方、中部地方、近畿地方、四国地方、九州地方を中心に分布している²⁾。

花期は6～11月で種子繁殖を行う³⁾。また、茎の断片や葉片から再生・繁殖が可能である³⁾。冬季は霜により葉が枯死する可能性がある³⁾が、少なくとも西南日本では沈水状態で常緑越冬することが知られている⁴⁾。

表 25 ミズヒマワリの生態情報

項目	情報
和名	ミズヒマワリ
学名	<i>Gymnocoronis spilanthoides</i>
英名	Senegal tea plant, Giant green hygro
分類	維管束植物 双子葉・合弁花類 キク科
基礎情報	湖沼やため池、河川、水路の水辺に生育する多年生の抽水植物 ¹⁾
原産	中南米 ¹⁾
見分け方	葉に毛はなく、縁は低い鋸歯 花は終わりの時期になると下を向く
繁殖生態	結実率は低いが発芽能力をもつ種子を形成 ¹⁾ 葉の断片や葉片から再生・繁殖可能 ³⁾
耐寒性	冬季は霜により葉が枯死し個体が縮小する可能性あり ³⁾ 少なくとも西南日本では沈水状態で常緑越冬 ⁴⁾
その他	多くの昆虫を誘引するため周辺在来植物から訪花昆虫を奪う危険性あり ^{1) 3)}

■ 見分け方

ミズヒマワリの同定については、「福岡県 侵略的外来種 防除マニュアル 2021」³⁾、「特定外来生物 同定マニュアル」⁵⁾を参考にされたい。

見分け方のポイントは以下の通りである。

- ★ 葉は対生で毛はなく、縁に低い鋸歯がある（写真①）
- ★ 夏季に白い花をつける（写真②）
- ★ 花の終わりは下を向く（写真③）
- ★ 草丈は0.5～2mになる。



写真①



写真②



写真③

水田や水路周りに自生する類似した白い花をつける植物は以下である。



ツルノゲイトウ
（外来種）



アメリカタカサブロウ
（外来種）



シロツメクサ
（外来種）



タカサブロウ
（在来種）

■ 分布情報

国立環境研究所 侵入生物データベース²⁾によると、これまでに確認されているミズヒマワリの分布（令和7年2月時点）は以下のようになっている。なお、侵入生物データベースには自治体へのアンケートをもとに作成された詳細マップも掲載されているため、参考にされたい。



図 52 ミズヒマワリの都道府県単位の分布地図
（必ずしも色が塗られた地域全体に分布するわけではない。
また、色が塗られていない都道府県でも分布している可能性がある。）

国土交通省等が実施する「河川水辺の国勢調査」では、河川における生物調査の中で植物調査を行っており、「河川水辺の国勢調査結果の概要〔河川版〕（生物調査編）」の「3. 植物調査」⁶⁾で一級河川における一部の種の植物の生育状況を知ることができる。以下は平成 28 年度～令和 4 年度の植物調査でミズヒマワリが確認された一級河川の調査地区である。

なお、「河川水辺の国勢調査結果の概要〔河川版〕（生物調査編）」では、年度ごとの分布情報が公表されるため、最新の情報を確認されたい。

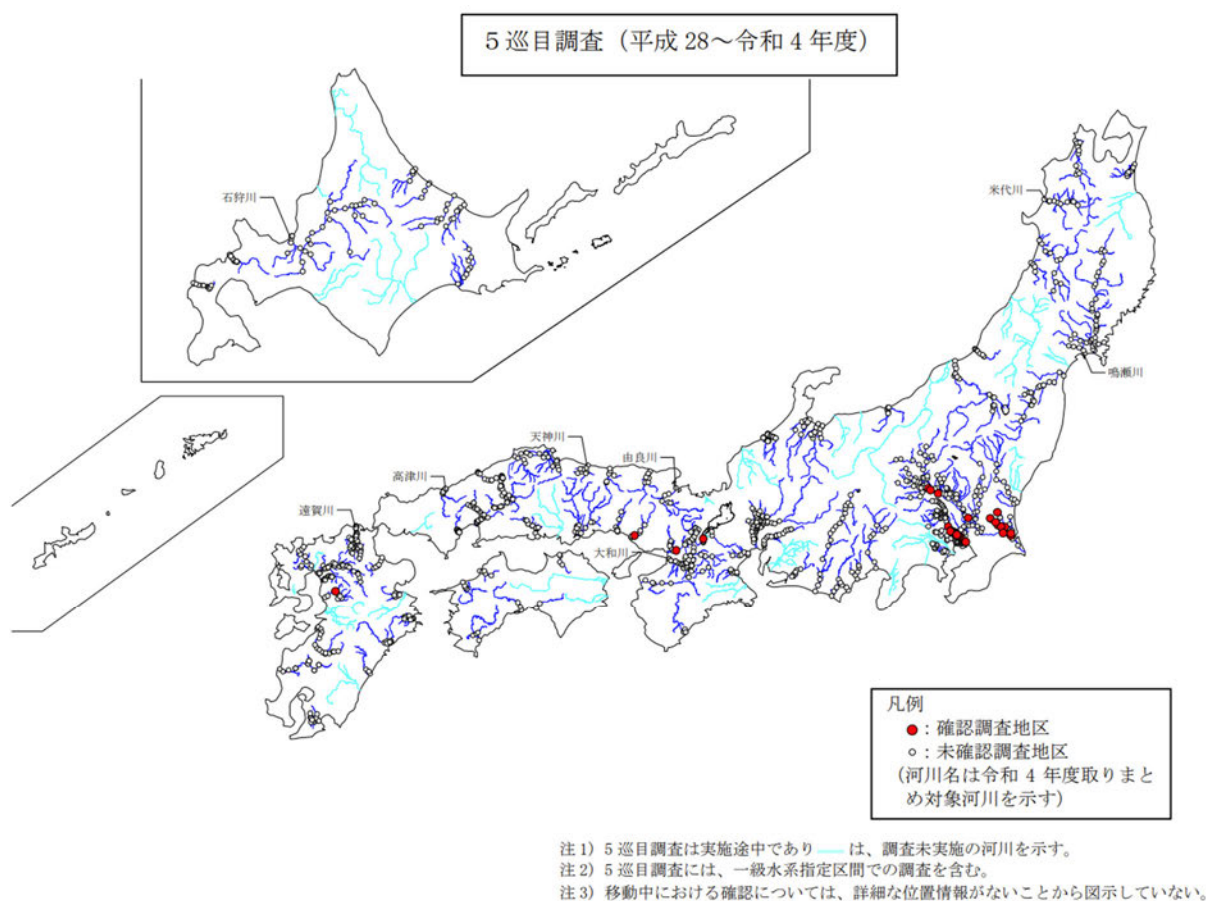


図 53 ミズヒマワリが確認された河川

（令和 4 年度 河川水辺の国勢調査結果の概要〔河川版〕（生物調査編）⁶⁾より引用）

(<http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukokuweb/gaiyou.htm>)

また、河川水辺の国勢調査の結果を集約している「河川環境データベース」⁷⁾を令和7年2月に確認した結果、過去の調査から1回以上ミズヒマワリが確認された水系は以下の通りである。

表 26 ミズヒマワリが確認されている水系

地方	水系	地方	水系
関東地方	利根川	近畿地方	淀川
	荒川		加古川
中部地方	狩野川	九州地方	菊池川
	天竜川		

3.6.2 被害状況

【概要】

水路、揚・排水機場で通水阻害等を引き起こす⁸⁾。

侵入先の水路、揚水機場等で繁茂し、堰に引っ掛かりゲート開閉に支障が出たり、通水阻害が生じたり等さまざまな問題を引き起こす⁸⁾。また、水路や河川で繁茂し水流を妨げたり、在来植物と競争、駆逐したり、水中の酸素濃度を低下させることにより魚類の生息を脅かすおそれがある⁵⁾（写真①、写真②）。



写真①



写真②

図 54 ミズヒマワリの主な被害状況

3.6.3 対策状況

【概要】

対策は重機または手作業による除去が一般的である⁸⁾。

重機及び手作業による除去作業が実施されている⁸⁾。

淀川河川事務所では、ワンドや河岸部において、平成 21 年度から冬季に駆除を実施している。芥川では住民団体が主体となって駆除活動が継続的に行われている⁹⁾。

琵琶湖では草津市で 2007 年に初めて確認されて以来、駆除の取り組みが継続的に実施され、現在（2011 年 7 月時点）では根絶に至る道筋が見えている状況である⁹⁾。

3.6.4 有効な対策

【概要】

対策は重機または手作業による除去が一般的である⁸⁾。有効な対策を以下に整理する。

対策	作業内容	注意点
重機・手作業	・ 重機で駆除作業後、残った植物断片や細やかな場所は手作業にて除去 （群落の規模が大きい場合） ・ バックホウ等の重機により底泥ごと剥ぎ取り除去 （群落の規模が小さい場合） ・ 手作業により地下部の抜き取りまたは底泥ごと剥ぎ取り除去	・ 重機による除去ではミズヒマワリ以外の種に対しても影響が出る恐れがあり、手作業による除去では 1 度の除去作業で根絶に至る可能性は低く、複数回実施すると人的コストが高くなる。
遮光	・ 遮光シートで覆い光合成を阻害することで枯死	・ 半年間で枯らすことができるとされているが詳細は不明

重機・手作業



重機で駆除作業後、残った植物断片や細やかな場所は手作業で除去する。

また、群落サイズ及びバイオマス（植物体の量）が多く大きな労力がかかる場合は重機による除去をする。水際に集積し、重機等を用いて駆除する。技術的に実施が容易という長所があるが、保全上重要な種が混在している場合、同時に除去してしまう恐れがある。

バイオマスが少ない場合は、他の生物に対しての影響が小さい手作業で除去する。スコップ等を用いて、水揚げをする。技術的に実施が容易で、選択的な駆除をすることで他生物への影響は低いという長所があるが、年に複数回実施するには人的コストが高くなるという短所もある。

「福岡県 侵略的外来種 防除マニュアル 2021」³⁾では、「下流部にネットを設置することによる茎断片の拡散防止」、「最上流地点から駆除を始める」、「根茎を丁寧に抜き取る」、「浮遊している茎断片や根茎をたも網で除去」等が提案されている。

本種は葉や茎等植物体の切片から再生するため、作業中に切断片を流下させない工夫が必要であり、活性の低下する冬期に作業を行うことも有効である。

また、流出防止用のネット敷設や集積場のシート敷設、作業後の機械や機器に植物断片が付着していないか確認等、拡散防止対策を実施することも重要である。加えて、除去後の再発生や取り残しがないかモニタリングをすることで、再発生に対して迅速な対応ができる。

遮光



大阪府水生生物センターの実験⁹⁾では、小規模群落では遮光シートを用いて遮光することで群落が消滅する等、駆除効果が認められている。なお、2ヶ月間の設置で地上部の枯死、半年間の設置で根も枯死するとされている³⁾。

本種は葉や茎等植物体の切片から再生するため、作業中に切断片を流下させない工夫が必要であり、活性の低下する冬期に作業を行うことも有効である。

3.6.5 あわせて確認したい資料

①特定外来生物 同定マニュアル（環境省）

ミズヒマワリの見分け方が整理されている。

(https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/10hp_shokubutsu.pdf)

②福岡県 侵略的外来種 防除マニュアル 2021（福岡県）

ミズヒマワリの見分け方、防除方法等が整理されている。

(<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/169206.pdf>)



①



②

参考文献

- 1) 角野 康郎 (2014) 日本の水草. 文一総合出版, 東京
- 2) 国立環境研究所「侵入生物データベース ミズヒマワリ」<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81120.html>, 2025 年 2 月 20 日確認
- 3) 福岡県 環境部 自然環境課 (2022)「福岡県侵略的外来種防除マニュアル 2021 -福岡県侵略的外来種リスト 2018 における重点対策外来種 20 種-」<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/169206.pdf>, 2025 年 2 月 20 日確認
- 4) 山ノ内崇志, 石川慎吾 (2013) 高知市新川川における特定外来種ミズヒマワリ (キク科) の帰化状況とその生育環境. 四国自然史科学研究, 7, 1-7.
- 5) 環境省「特定外来生物の見分け方 (同定マニュアル)」<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual.html>, 2025 年 2 月 20 日確認
- 6) 国土交通省「河川水辺の国勢調査結果の概要 [河川版] (生物調査編)」<https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukokuweb/gaiyou.htm>, 2025 年 2 月 20 日確認
- 7) 国土交通省「河川環境データベース」<http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/index.html>, 2025 年 2 月 20 日確認
- 8) 農林水産省 農村振興局 農村政策部鳥獣対策・農村環境課 (2021)「農業水利施設における水生生物による通水阻害実態調査－アンケート調査」https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kankyo_hozen/attach/pdf/index-75.pdf, 2025 年 2 月 20 日確認
- 9) 近畿地方整備局 淀川河川事務所 (2011)「淀川河川事務所管内侵略的外来種ワースト 100 (2011 年 7 月 暫定版)」<https://www.kkr.mlit.go.jp/yodogawa/activity/environment/nb3uba00000007yw-att/werst.pdf>, 2025 年 2 月 20 日確認